

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.8.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

12:4 アブラムは、【主】が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒にであった。ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。

12:5 アブラムは、妻のサライと甥のロト、また自分たちが蓄えたすべての財産と、ハランで得た人たちを伴って、カナンに向けて出発した。こうして彼らはカナンの地に入った。

12:6 アブラムはその地を通して、シェケムの場所、モレの榎の木のところまで行った。当時、その地にはカナン人がいた。

12:7 【主】はアブラムに現れて言われた。「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える。」アブラムは、自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。

12:8 彼は、そこからベテルの東にある山の方に移動して、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は、そこに【主】のための祭壇を築き、【主】の御名を呼び求めた。

12:9 アブラムはなおも進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。

「父の家を出て」とは、父の家の庇護と価値観から離れてという意味もあります。アブラムは守られてはいましたが、その価値観の中に浸っていたのです。それは神第一ではなく、この世と妥協する価値観でした。

また異教の地から離れてという意味がありました。父の家があったカランは月を神とする偶像礼拝の地なのです。アブラムが神の主権に従う人生を進むには、このように父の家から出る必要があったのです。

そして「わたしが示す地へ」とは、神さまの計画にある地ですが、それがどこであるかはまだわかりませんでした。このように神様は「どの道か、どの選択肢か」という具体的な指示を与える前に、ご自身に従うかどうかを問われます。大切なのはこの点なのです。神への信頼や従順がなくて、見える結果だけが合っていても意味がないのです。

神様はアブラムが従順であるなら、「祝福しよう」とおおせられますし、また「地上のすべての民族は」と信仰の父とすることを約束なさっています。

アブラムは財産もありましたから、人生にリスクを負うことは普通では難しかったでしょう。また高齢でもありました。しかし、彼の信仰はそれらにまさっていたのです。その証として彼は事あるごとに記念の祭壇を築き礼拝しました。

私たちは、自分の人生と信仰に関しては自分で決断する必要があります。親や先輩には感謝しつつも、親ではなく自分の信仰で主に従いましょう。またリスクがあっても従いましょう。それは祝福への道です。また神のご計画を担うという栄誉にあずかる道でもあるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





12:10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。その地の飢饉が激しかったからである。

12:11 彼がエジプトに近づいて、その地に入って行こうとしたとき、妻のサライに言った。「聞いてほしい。私には、あなたが見目美しい女だということがよく分かっている。」

12:12 エジプト人があなたを見るようになると、『この女は彼の妻だ』と言って、私を殺し、あなたを生かしておくだろう。」

12:13 私の妹だと言ってほしい。そうすれば、あなたのゆえに事がうまく運び、あなたのおかげで私は生き延びられるだろう。」

12:14 アブラムがエジプトにやって来たとき、エジプト人はサライを見て、非常に美しいと思った。

12:15 ファラオの高官たちが彼女を見て、ファラオに彼女を薦めたので、サライはファラオの宮廷に召し入れられた。

12:16 アブラムにとって、物事は彼女のゆえにうまく運んだ。それで彼は、羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男奴隷と女奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。

12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、ファラオとその宮廷を大きなわざわいで打たれた。

12:18 そこで、ファラオはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私に何ということをしたのか。彼女があなたの妻であることを、なぜ私に告げなかったのか。」

12:19 なぜ、『私の妹です』と言ったのか。

だから、私は彼女を自分の妻として召し入れたのだ。さあ今、あなたの妻を連れて、立ち去るがよい。」

12:20 ファラオがアブラムについて家来に命じたので、彼らは彼を、妻と、所有するすべてのものと一緒を送り出した。

信仰の父アブラム（後にアブラハム）ではあっても、この世の現実の中に生きなければなりません。激しいききんがあったのです。彼は主に導かれた土地の人々とその苦しみを共にするという選択肢もあったのですが、一族と使用人たちのことへの責任感からか、場所を変えることを選びました。

また信仰のために良い土地柄を選ぶ必要もありましたが、現実的にはしょうがなくエジプトを選びました。そして主の守りを固く信じて嘘偽りのない道を選ぶこともできましたが、妻を守るために嘘を言ったわけです。

彼を不信仰と一言で言うてしまうのは簡単ですが、彼の側に立てば、苦渋の選択をせざるを得なかったとも言えるでしょうし、また私たちも同じような立場に立たされることもあるのではないのでしょうか。

主はアブラムを咎めもせずを守ってくださいました。同じように主は弱い信仰の者をも守ってくださいます。ならば私たちも弱いままで良いのでしょうか。主はこの後、アブラムを数々の試練に合わせられます。アブラムは成長し、強められ、信仰の父になったのです。

信仰者の人生にはすばらしい主の使命があります。それは「やらなくても良い」という程度のいい加減なものではなく、必須科目です。そしてそれは最大の祝福であり栄誉なのです。

そのために私たちは成長し、強くなる必要がありますから、試練は当然あるのです。ではまだ弱い信仰のときはどうなるのでしょうか。神は丁度良い訓練を与えてくださるのです。アブラムの

ケースのように。しかもちゃんと守ってくださりつつ。

使命を受け止め、成長をめざし、前進しつつ、主からの祝福と栄誉を受け取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:1 そこで、アブラムはエジプトを出て、ネゲブに上った。妻と、所有するすべてのものと、ロトも一緒であった。

13:2 アブラムは家畜と銀と金を非常に豊かに持っていた。

13:3 彼はネゲブからベテルまで旅を続けて、ベテルとアイの間にある、最初に天幕を張った場所まで来た。

13:4 そこは、彼が以前に築いた祭壇の場所であった。アブラムはそこで【主】の御名を呼び求めた。

13:5 アブラムと一緒に来たロトも、羊の群れや牛の群れ、天幕を所有していた。

13:6 その地は、彼らが一緒に住むのに十分ではなかった。所有するものが多すぎて、一緒に住めなかったのである。

13:7 そのため、争いが、アブラムの牧者たちと、ロトの家畜の牧者たちの間に起こった。そのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。

13:8 アブラムはロトに言った。「私とあなたの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いがないようにしよう。私たちは親類同士なのだから。

13:9 全地はあなたの前にあるではないか。私から別れて行ってくれないか。あなたが左なら、私は右に行こう。あなたが右なら、私は左に行こう。」

13:10 ロトが目を見てヨルダンの低地全体を見渡すと、【主】がソドムとゴモラを滅ぼされる前であったので、その地はツォアルに至るまで、【主】の園のように、またエジプ

トの地のように、どこもよく潤っていた。

13:11 ロトは、自分のためにヨルダンの低地全体を選んだ。そしてロトは東へ移動した。こうして彼らは互いに別れた。

13:12 アブラムはカナンの地に住んだ。一方、ロトは低地の町々に住み、ソドムに天幕を移した。

13:13 ところが、ソドムの人々は邪悪で、【主】に対して甚だしく罪深い者たちであった。

13:14 ロトがアブラムから別れて行った後、【主】はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいるその場所から北、南、東、西を見渡しなさい。

13:15 わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与えるからだ。

13:16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのように増やす。もし人が、地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えることができる。

13:17 立って、この地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに与えるのだから。」

13:18 そこで、アブラムは天幕を移して、ヘbronにあるマムレの榿の木そばに来て住んだ。そして、そこに【主】のための祭壇を築いた。

「わたしの示す地に行きなさい」と言われた主の導きで歩んできたアブラムですから、ここでも導きに従順であったことがわかりますし、またそれによって正しい選択ができました。

アブラムとロトには争いはなく、互いに尊重し合っていたようですが、財産や人間が多くなって

共に生活するのが困難になりました。この時、主に導かれているのはアブラムですから、ロトにがまんして従えと言えなくもないでしょう。しかし、アブラムは目に見える結果（この場合は自分の権威）よりも主の御心を行ったのです。

またどの地を選ぶかについても、目に見える主の場所に固執しないで、主への従順（この場合はロトとの平和）を選んだのです。

もしも、「自分は神の御心を聞いているのだから」と自分の選択を押し付けていたら、ロトとの間に争いが生まれ、カナン人やペリジ人に攻め入れられる隙を与えていたでしょう。その結果、主に従っているように見えたアブラムが、主の計画を成し遂げられなくなるのです。

何をするか、どこに行くか、誰に権威があるか、何が決定されたか…そういったことよりも大切なことがあります。それは主に従順であり、どんな状態でも主の御心を行うという事です。

ロトは自分で最善の選択をしたつもりでしたが、主の御心（すなわち価値観）よりも自分の判断を優先したので、トラブルの地に住みました。アブラムは主の約束をいただきました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:1 さて、シニアルの王アマラフェル、エラサル王アルヨク、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアルの時代のことである。

14:2 これらの王たちは、ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アダマの王シンアブ、ツェボイムの王シェムエベル、ベラスなわちツォアルの王と戦った。

14:3 この五人の王たちは、シディムの谷、すなわち塩の海に結集した。

14:4 彼らは十二年間ケドルラオメルに仕えていたが、十三年目に背いたのである。

14:5 そして十四年目に、ケドルラオメルと彼に味方する王たちがやって来て、アシュタロテ・カルナイムでレファイム人を、ハムズジム人を、シャベ・キルヤタイムでエミム人を、

14:6 セイルの山地でフリ人を打ち破り、荒野の近くのエル・パランまで進んだ。

14:7 それから彼らは引き返して、エン・ミシュパテ、すなわちカデシュに至り、アマレク人の全土と、さらにハツェツオン・タマルに住んでいるアモリ人を打ち破った。

14:8 そこで、ソドムの王、ゴモラの王、アダマの王、ツェボイムの王、ベラスなわちツォアルの王は出て来て、シディムの谷で戦う備えをし、

14:9 エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアル、シニアルの王アマラフェル、エラサル王アルヨクと対峙した。この四人の王と、先の五人の王とであった。

14:10 シディムの谷には瀝青の穴が多くあり、ソドムの王とゴモラの王は逃げたとき、その

穴に落ちた。そして、残りの王たちは山の方に逃げた。

14:11 四人の王たちは、ソドムとゴモラのすべての財産とすべての食糧を奪って行った。

14:12 また彼らは、アブラムの甥のロトとその財産も奪って行った。ロトはソドムに住んでいた。

14:13 一人の逃亡者が、ヘブル人アブラムのところに来て、そのことを告げた。アブラムは、アモリ人マムレの樫の木のところに住んでいた。マムレはエシュコルとアネルの兄弟で、彼らはアブラムと盟約を結んでいた。

14:14 アブラムは、自分の親類の者が捕虜になったことを聞き、彼の家で生まれて訓練された者三百十八人を引き連れて、ダンまで追跡した。

14:15 夜、アブラムとそのしもべたちは分かれて彼らを攻め、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで追跡した。

14:16 そして、アブラムはすべての財産を取り戻し、親類のロトとその財産、それに女たちやほかの人々も取り戻した。

当時、この地には数々の支配者とその都市国家が存在していました。それらは一国では弱いので連合を作り、敵と争いつつ安定を保とうとしていたのです。ロトはそのような都市の一つであるソドムの近くに住んでいました。古今の都市が人を惹きつけるものは何でしょうか。それは商業などによる富の豊かさ、様々な快楽、情報や人との交わりなどでしょう。ロトもそれらの恩恵にあずかっていたでしょうが、それは当然、都市の持つ危険とも隣り合わせだったのです。危険とは競争であり戦いであり、墮落であり、財産と身に及ぶものです。

現代も同じで、私たちは社会の恩恵と危険を共に受ける可能性があります。ロトが自分の豊かな生活を優先させて、その価値観でソドムに生きた例には倣わないようにしましょう。現代社会に生きながらも、この世の自己中心的な価値観、神無視の価値観に流されないで、神への従順に生きましょう。

なぜなら、ロトのときのように、危険から救い出してくださるのは神であり、また神が守るのは神によって生きる人々だからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:17 アブラムが、ケドルラオメルと彼に味方する王たちを打ち破って戻って来たとき、ソドムの王は、シャベの谷すなわち王の谷まで、彼を迎えに出て来た。

14:18 また、サレムの王メルキゼデクは、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。

14:19 彼はアブラムを祝福して言った。「アブラムに祝福あれ。いと高き神、天と地を造られた方より。

14:20 いと高き神に誉れあれ。あなたの敵をあなたの手に渡された方に。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。

14:21 ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」

14:22 アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地を造られた方、

【主】に誓う。

14:23 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。

14:24 ただ、若い者たちが食べた物と、私と一緒に行動した人たちの取り分は別だ。アネルとエシュコルとマムレには、彼らの取り分を取らせるように。」

アブラムの戦力が連合国の軍隊に勝るはずもありませんが、ロトへの無条件の愛のゆえに、また神様からの祝福の約束のゆえに戦いに出てゆき、見事に勝利しました。これに対して、メルキゼデク王は真の祭司でもあったので、これは神の勝利であることを告白し、その神のゆえにアブラムを祝福しました。

そしてアブラムは、神への感謝のゆえに、祭司としての働きを敬い、メルキゼデクにささげ物をしたのです。

一方ソドムの王は神なき価値観で行動していません。最初の段階でソドムは敗戦国です。古代ではアブラムのように勝利を収めるなら、そのまま国の支配者になってもおかしくありません。または相当の財産や領土や奴隷を要求するものです。しかし、ソドムの王が言った「取ってください」は命令形で、彼が威厳を保ったままアブラムと取引きをして、譲歩を引き出そうとしていることがわかります。そこには神への感謝や畏敬はなく、ただ自分を守るために、目に見える部分で画策している人間の姿があるのです。

アブラムは、支配者になることもせず、また財産を手に入れることもしませんでした。ただ、主の栄光を表し、「自分富ませたのはソドムの王ではなく、全能の神である」という証を選んだのです。

また、だからと言って自分の行動を、他の立場の人にまで押し付けませんでした。同盟を結んでいたアネルとエシュコルとマムレには、ふさわしい取り分を要求したのです。

メルキゼデクのように神のみわざに目を向けましょう。アブラムのように、神の働き人を尊重し助けましょう。また良識ある行動によって平和と証を立てましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





15:1 これらの出来事後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。「アブラムよ、恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に大きい。」

15:2 アブラムは言った。「【神】、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。私は子がないままで死のうとしています。私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのでしょうか。」

15:3 さらに、アブラムは言った。「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかったの、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」

15:4 すると見よ、【主】のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いでではない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」

15:5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

15:7 主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した【主】である。」

15:8 アブラムは言った。「【神】、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」

15:9 すると主は彼に言われた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三

歳の雄羊と、山鳩と、鳩のひなを持って来なさい。」

15:10 彼はそれらすべてを持って来て、真っ二つに切り裂き、その半分を互に向かい合わせにした。ただし、鳥は切り裂かなかった。

15:11 猛禽がそれらの死体の上に降りて来た。アブラムはそれらを追い払った。

「これらの出来事後」とあるように、神は信仰者の従いや成長に合わせて御声をくださり、また計画を教えてくださいます。また「恐れるな」というように、安心と希望がともなっています。

しかし、アブラムに子どもがないということは、その約束も成り立たず、彼にはそれが一番の心配でした。主は天の星を見上げさせてビジョンを示しました。そこでアブラムは、心配な現実や常識的な見通しではなく、主ご自身を信じたのです。私たちも「主を」信じる必要があります。それも、自分に都合の良いことをしてくださる主ではなく、最善なご計画を成し遂げてくださる、全能の主権者であられる「主」です。

「どのようにして」ということばは、マリアが天使に問うたことばを思い起こさせます。疑っているのではなく、より深い理解と強い確信を得たいということでしょう。（アブラムも後に確信が揺らいでしまうこともあったのですから。）私たちも謙遜になって、より強い信仰のために主のみわざと答えを求めて良いのです。

それに対して神様は、現実的な証拠を示すよりも、ご自身の熱心を表されました。すなわち、当時行われていた契約の方法に倣って、「破った場合は動物のように死である」「このように命をかける」と、その誠実を表したのです。

確かに新約の光から見ると、アブラムの信仰の子孫が与えられるためには、命が犠牲にされました。すなわち十字架のイエス様、神ご自身の犠牲です。主のご計画に進むために、私たちはあ

まりにも見える確証を要求しすぎかもしれない。主の十字架の犠牲と誠実さ、その熱心を思い、主を信頼すべきです。

また「追い払った」とあるように、主の約束はよく注意を払い、（サタンによって）取り去られないようにする必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:12 日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。

15:13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。

15:14 しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。

15:15 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。

15:16 そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。」

15:17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。

15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。

15:19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、

15:20 ヒツタイト人、ペリジ人、レファイム人、

15:21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。

祝福の約束をもらったアブラムでしたが、夢うつつのような状態のときに、急に不安に襲われました。誰もおなじような経験があるでしょう。そのようなときは祈って、神様の声を聞くチャンスです。不安

の解決が動機でもかまいませんから、とにかく祈ることです。主はそこから重要で必要なことを教えてください。

アブラムには、その漠然とした恐怖の源について教えられます。それは子孫がエジプトで奴隷として苦しめられることを意味します。しかし、その後の開放と勝利も約束されます。悪いことは起こりうるものです。それに目を閉じて考えないようにすることが、信仰ではありません。事實は受け入れつつ、それを越える神の勝利を約束として信じることです。

エモリ人とは、やがてイスラエル人が戦い取って定住するカナン地の先住民族です。「咎が…満ちる」とは彼らが罪深いゆえに滅ぼされるということなので、そういう一面もあるのです。さばきの神というだけではなく、周辺の善良な人々を守るという愛の行使でもあります。神様や信仰というものを一面だけでとらえず、神様の大きなご計画に目を留めましょう。

「切り裂かれたもの間を通り過ぎた」とありますが、それは当時の契約の習慣で、もしも破るようなことがあればこのような切り裂かれるという、厳粛な意味で、神様のアブラムへの約束の真剣さを表すものです。

不安なときこそ祈り、平安の約束をいただきましょう。それを真剣に成し遂げてくださる神を信じ抜きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

